

## 第 17 回全国登山者自然保護集会

### リニア新幹線計画の凍結を求めるアピールを採択

第 17 回全国登山者自然保護集会（10 月 11～12 日）では、「南アルプスの山岳自然を貫くリニア新幹線 国民の声を無視する計画の凍結を求めるアピール」を採択した。

全国登山者集会は静岡県連盟の主管で、南アルプスの大自然を貫くリニア中央新幹線を名インテーマにして開催、17 都府県から 89 名が参加した。静岡大学名誉教授・静岡県環境影響評価審議会会長の和田秀樹氏に「南アルプスリニア線、大地下トンネルの環境影響評価」について講演していただいた。

南アルプスは、6 月にユネスコパーク（生物圏保存地域）に登録されたばかりで、南阿アルプスを 25 km のトンネルで貫くもの。水源の枯渇や水生生物、動植物など山岳自然の生態系や自然景観をも破壊されることから、近隣自治体、日本自然保護協会や日本弁護士連合会などからも計画の見直しや凍結の意見が出されている。

アピールは、「勤労者山岳連盟と会員は、『登山文化の継承発展と、山岳自然と登山者との新しい共存』をめざす労山自然保護憲章を掲げ環境を守る観点から自然保護環境を破壊し阻害するような大規模開発・計画は、中止を求めてきました。リニア新幹線計画は拙速に行わずに凍結し、南アルプスの大自然の環境保全の国民的議論を実施することが必要」と呼びかけている。

国交相は 10 月 17 日に建設を認可、JR は年明けに工事を始める方針という。山岳団体として、自然環境保護の立場から観察山行も必要になってくる。

了